

闘争報告

林医院（呉市倉橋町）のパワハラ

長時間労働を許すな！

10月のある日、同じ病院に働く看護士さん二人からそれぞれスクラムユニオンに電話相談があった。たいへんワンマンな病院長のパワハラに苦しめられ、精神を病んで退職に追いやられたという。

Sさんの場合

Sさんは、17年勤続の看護師責任者であった。朝8時に出勤して、外来から病棟そしてまた外来、夜勤と32時間の連続勤務、月1日の休みといった長時間労働が何ヶ月も続いた。月200時間にも上る残業のうえに、この病院長は、気に入らないと物を投げたり、朝礼などで

Eさんの場合

Eさんは、約1年前に事務長として入社したが、事務長として机の前にいることなく動き回って、全くの雑用扱いだった。

Eさんは、林医院の立ち上げた「ルネッサンス出汐」（広島市内）で仕事をしていたが、ある日医院長から「すぐ倉橋に來い」と電話があった。電車通勤していたので「足がないので行けません」と応え、「それが事務長の仕事だ、できないなら辞めろ」と言われ、事務長を辞めると言われたのだと思い「辞めます」といった。やりとりの最後に「辞めるんなら引き継ぎして退職届を出せ」「退職金は払ってやる」と言われ、はじめてクビになったのだとわかった。

第一回団交

11月4日、団交を行なった。

①Eさんの問題については「辞めろとは言っていない」と言い張

ったが、解決金（解雇予告手当）と退職金を合わせて1ヶ月分の給料分という訳の分からない内容であったが）を出すことを約束させた。

②Sさんについては勤続年数や退職金については事務方が出払っていてわからないということ（実は院長のパソコンにすべて入っている）、資料だけ提出させた。「就業規則」「退職金規程」「給与規定」とSさんの過去2年分の賃金台帳の写しが提出された。その上で、次回までに退職金計算内容を明らかにすることで確認した。

団交のあと、Eさんたちから「あんなおとなしい院長初めて見た」「気分がすっとした」という感想があった。

この病院は、死亡診断書を見る護士に書かせる」など、医師法違反ではないかという事態が多いという。病院の体質も問題にしていかなければならない。